

男性の調理「困った」を探る

男性が調理で難しく感じる点を探るため、カメラで撮影した実演調査。16日、福井市の県生活学習館



お茶の水女子大福井で調査

家事参加支援へ

男女共同参画を推進するため、県と共同研究しているお茶の水女子大の研究グループは16日、男性の調理中の動きに関する実演調査を福井市の県生活学習館で行った。調理で男性がつまづく点を明らかにし、支援策を講じること、家事参加を促すのが目的。県内の男性4人が料理する様子を撮影し、困ったポイント聞き取った。同大は県と相互協力協定を結んでおり、2022年

から共働き夫婦を対象に実演調査を始めた。これまで男性と女性がそれぞれ料理したときの動作の違いや、夫婦一緒に調理する際の男性の動きと女性の指示の仕方を調べてきた。今回の調査では、大根と油揚げのみそ汁と肉野菜炒めの2品について、レシビを見ながら料理する男性を撮影。調理後に映像を確認しながら、手が止まった理由などを聞き取った。参加し

た福井市の男性(41)は「普段は妻の母が料理をしてくれるので台所に立ったのは2年ぶりかな。レシビが手放せず、慣れない作業に疲れました」と話していた。同大は3年分の実演調査結果を分析した上で、調理器具の開発や教育プログラムの考案などの支援策に生かしていく。代表研究者のお茶の水女子大ジェンタード・イノベーション研究所の斎藤悦子教授は「女性が社会で活躍するため夫婦で協力し合えるプログラムを考えていきたい」と話していた。(後藤奈央)

福井新聞社提供